

# ね、この本よんだ？



2025年度



図書館で発行している『としょかん通信』でご案内した  
「あたらしい子どもの本」のリストです。

絵本、読みもの、テーマ本の三つの柱にわかれた  
ブックガイドとなっています。

紹介した本は、図書館で貸出ご利用いただけます。

このリストが、子どもたち、そして大人のみなさんにとっても  
素敵な本との出会いのきっかけになりますように。

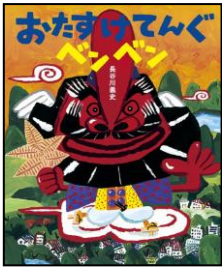


久留米市立中央図書館



『おたすけてんぐベンベン』

長谷川義史／文と絵  
光村教育図書  
教育画劇



「ないているこはござらぬか こまっ  
ているこはござらぬか」おたすけて  
んぐのところには、今日もいろんな  
お願いが届きます。どんなことでも  
てんぐの力で、ベベベンペンと解  
決！ だけど、いつもニコニコえりちゃん  
から届いたお手紙には願いごと  
が書いてありませんでした。さて、お  
たすけてんぐは解決できるのでしょ  
うか？ 大迫力の絵も、見どころいっ  
ぱいの楽しい絵本です。

『うっかり書房』

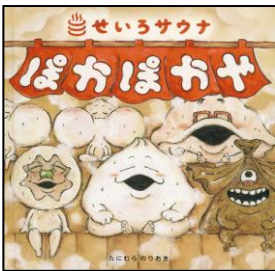
そのだえり／作  
理論社



ワオキツネザルのワオくんは、おう  
ちが本で傾いてしまうほど本が大好  
き。てばなす本を選べないワオくん  
はフクロウ先生に相談して、“うっか  
り書房”と名づけた本屋さんをつくる  
ことになります。棚をつかって、本をな  
らべて、てんちょうパッチをつけたワ  
オくんの本屋さんはいよいよオーブ  
ン！ 本を読む・伝える・つくる楽しさを  
味わえる絵本です。

『せいろサウナぽかぽかや』

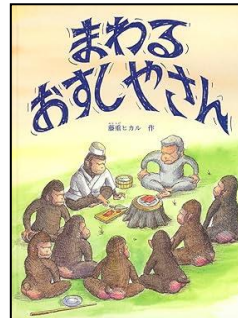
たにむらのりあき／作  
福音館書店



大きなせいろの形のサウナ・ぽ  
かぽかやには、寒さに震えてい  
た肉まんさんたちがぞくぞくと来  
店。ぽかぽかやで温まったみん  
なは、ふっくらぽかぽかになっ  
て大満足です。お客さんたちの  
リラックスした顔、熱さを耐える  
豊かな表情がコミカルで、寒く  
てたまらない冬の日を読むと、  
心も体もほっこりできる絵本で  
す。

『まわる おすし屋さん』

藤重ヒカル／作  
福音館書店



山奥で行われる動物のお祭り  
で、人間に人気の「まわる  
お寿司屋さん」を真似するこ  
とにしたサルたちですが、ど  
んなお店かさっぱりわかりま  
せん。回るのはお店？ それと  
もイース？ 何度も試作してみた  
けれど、何かちがうみたい。  
サルのお寿司屋さんは、どん  
なお店になるのでしょうか。

## えほん(海外)

### 『おおきなおおきなあさごはん』

リチャード・ジョーンズ／さく  
よしい かずみ／やく  
化学同人



ある日、一羽のことりがやってきて、男の子の手からごはんを食べたよ。「ことりさん、またあした」すると次の日、2ひきのネズミも仲間入り。さらに、4ひきのリス、8ひきのオオカミ、16頭のゾウと、あさごはんを食べにくるはらぺこさんはどんどん増えていって、わいわい、がやがや、とつてもにぎやか！みんなおなかいっぱいになったかな？

### 『よあけのはこ アラスカのむかしばなし』

ポプ・サム／語り  
あずみ虫／絵  
谷川 俊太郎／訳  
あすなろ書房



アラスカ先住民族クリンギット族に伝わるむかしばなしの絵本です。一羽のワタリガラスが、隠された太陽・月・星を取り戻し、世界に光を蘇らせます。1年の半分をアラスカで過ごす絵本作家・あずみ虫が、友人になったクリンギット族ポプ・サムからお話をもらい、6年をかけて完成させました。光を取り戻したにぎやかな世界が、力強く描かれている絵本です。

### 『いやいやパブロ』

ナタリア・シャロシュヴィリ／作  
増子久美／訳  
化学同人



朝ごはんの時に、ママはパブロを公園へ誘いました。だけど、パブロは「いや！」といいます。「ブランコはゆれてばかりだし、すなばはすなばばかりだし、それに・・・すべりだいはずべりすぎ！」じゃあ、海は？映画は...？どこへ誘われても、パブロは「いや！」なのでした。パブロの「いやいや」は、どうしたらなおるのかな？

### 『ぼくの名前がきえないように』

バティスト・ポーリュウ／文  
チン・レン／絵  
ひがき ゆみ／訳  
ひさかたチャイルド



フランシスコは学校でクラスメイトに嫌われないように、自分の意見を言わないまま過ごしていました。するとある日、自分のコートかけの名前が消えかけていることに気がついて...。“自分の意見に自信を持つ”にはどうしたらいいのか考えるきっかけになる絵本です。

## 読みもの

### 『日下部くんには日傘が似合う』

神戸 遙真／作  
ぽん豆°／絵  
あかね書房



「こんなにいい天気なんだから、日傘がなきゃダメでしょ」とお母さんから黒い折りたたみ傘を持たされた一真は、それを持って余していました。熱中症を心配してくれているんだとはわかって、周りの目が気になりなかなか勇気がでません。そんな通学路に、白いフリルの日傘を指した同じクラスの日下部君を見つけます。日下部君の日傘を巡り、自分の心と向き合うことを考える5章の連作短編小説です。

### 『まるみかん大一番』

まはら 三桃／作  
小学館



ぼくたちの図書館、通称くまるみかん>が閉館される。どうしたらいいのだろう？まるみかんをまもる会をたちあげ、図書館の閉館反対をうたえる。ぼくたちは力をあわせて声をあげる。一歩踏み出したこの勇氣に、こころが温くなる読み物です。

### 『みんなの居場所』

白矢 三恵／作  
いつか／絵  
文研出版



クラスメイトの生田玲央、唐沢陸、野島まひる。玲央は父と2人で暮らし、食事はスーパーの弁当。陸は父と孤独に悩むフィリピン人の継母の3人で暮らす。まひるは母と妹、介護が必要な祖母の3人暮らしで、ヤングケアラー。3人は子ども食堂を営むオニばあと出会い、食堂に居場所を見つける。現代の子どもたちが抱える家庭の問題を知るきっかけになる作品。

『うめぼしつくったよ』  
ひさかたチャイルド



おにぎりやおべんとうでおなじみのうめぼし。この本では、男の子がおばあちゃんとうめぼしづくりを体験します。うめを収穫すると、塩と一緒にびんづめ、赤しそで色付け、仕上げに天日干し。さあ、うめぼしはできるかな？丁寧な作り方ポイントも紹介されているので、梅干しづくりに挑戦したくなる1冊です。あざやかな写真も見どころです。

『探知犬ものがたり』  
有島希音・速渡普士/文  
文研出版



事件の捜査に協力する警察犬、災害現場で人を救う災害救助犬など、優れたきゆう覚と身体能力ではたらく犬たちが「探知犬」です。地震や土砂くずれなどの危険な現場で活やくする姿が、時々テレビで放送されています。私たちのために、けんめいにはたらいてくれる「探知犬」の一生を知ることが出来る実話です。きつともつと応援したくなります。

『牛革のランドセルができるまで』  
上吉川 祐一／写真・文  
文一総合出版



いつも使っているランドセルは何から作られているか知っていますか？ランドセルにも使われている「革」の多くは牛の「皮」を加工します。この本は、牛の皮が多くの職人さんの手によって、ランドセルなどの革製品に変身していく過程をダイナミックな写真で紹介しています。知るともっとランドセルや革製品のことを大事に使いたくなりますよ。